

## 「森林後退の場所における森林更新の場の保全」の評価

### 1. 取組内容

森林後退の場所における森林更新の場の保全を目的として、小規模防鹿柵の設置や、現存する倒木、根株の保全等の取組を実施した。

### 2. 取組の評価

#### (1) 小規模防鹿柵（東大台）の設置効果について

正木峠南西部の森林後退箇所の疎林地部に設置した小規模防鹿柵内では、平成 19 年度の防鹿柵の設置後、樹高 30cm 以上の針葉樹稚樹の個体数が増加傾向であることから、防鹿柵の設置により針葉樹実生の発芽、定着が促進され、後継稚樹群が形成されたと考えられる。

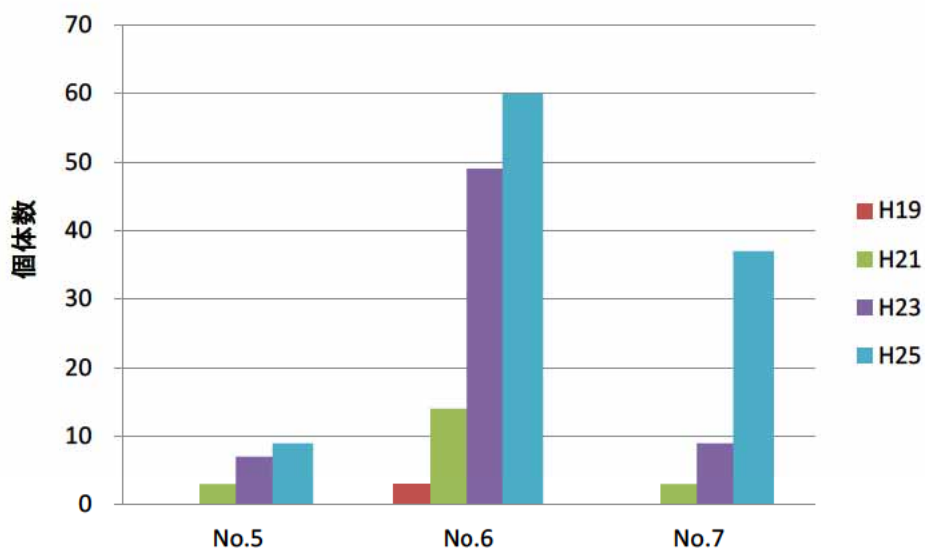


図 1 小規模防鹿柵内における樹高 30cm 以上の針葉樹稚樹の個体数の変化（疎林地）  
※東大台の小規模防鹿柵のうち、疎林地に設置した No. 5～7 内の稚樹の総数で示した。



疎林地部に設置した小規模防鹿柵内で生育するトウヒ等針葉樹の稚樹（平成 23 年撮影）

## (2) 倒木、根株の保全について

東大台の森林後退の場所において、倒木、根株に着目した保全対策は現在実施していない。トウヒ、ウラジロモミ、ヒノキの発芽定着に適した倒木、根株と蘚苔類の関係が明らかとなったことから（資料1\_3-5（2）参照）、今後、条件を満たす倒木、根株の分布状況を明らかにし、その保全を進めていく必要がある。